

特

集

Special Feature

老健施設だからできる 地域におけるターミナルケア

超高齢社会における多死社会到来に向け、日本人の「死」に対する考え方もこれまでとは変わりつつある。過度な医療的処置をせず、できるかぎり穏やかに自然な形で迎える死を望む人が増えている。

医師が常駐する安心感、馴染みのスタッフの手厚いケアのもと、家族とも最期に濃密な時間を過ごしていただく。そうしたサービスが提供できるのは、老健施設ならではの強みである。本特集では、老健施設だからできる地域におけるターミナルケアとは、ACP（Advance Care Planning）*の進め方、利用者・家族への配慮等、改めて“老健施設の看取り”を考察する。

*人生の終末期にどのような医療やケアを望むのかを前もって話し合っておくこと。「人生会議」とも呼ばれる。



レポート

地域医療と密連携し家に戻ってもらう 人生の最期を輝かせるために

館山ケアセンター夢くらぶ（千葉県）



レポート

年間60件もの看取りは いかにして実現できているのか

介護老人保健施設やすらぎの里八州苑（栃木県）